

ペテロの第二の手紙

第一章 イエス・キリストの僕また使徒であ

るシメオン・ペテロから、わたしたちの神と救主イエス・キリストとの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を授かった人々へ。

二神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。

三いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。四また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。五それだから、あなたがたは、力の限りを尽くして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。六これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはな

いであろう。九これらのものを備えていない者は、盲人であり、近視の者であり、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れている者である。一〇兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。二こうして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである。

三それだから、あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立ってはいらぬが、わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。三わたしがこの幕屋にいる間、あなたがたに思い起させて、奮い立たせることが適当と思う。四それは、わたしたちの主イエス・キリストもわたしに示して下さったように、わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っているからである。五わたしが世を去った後にも、これらのことを、あなたがたにいつも思い出させるように努めよう。六わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。七イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、「これはわたしの愛する

子、わたしの心にかなり者である」。一「わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。二「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめてゐるがよい。三「聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。三「なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。

第二章

一しかし、民の間に、にせ預言者が起ったことがあるが、それと同じく、あなたがたの間に、にせ教師が現れるであろう。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあがなって下さった主を否定して、すみやかな滅亡を自分の身に招いている。二また、大ぜいの人が彼らの放縱を見習い、そのために、真理の道がそしりを受けるに至るのである。三「彼らは、貪欲のために、甘言をもってあなたがたをあざむき、利をむさぼるであろう。彼らに対するさばきは昔から猶予なく行われ、彼らの滅亡も滞ることはない。四「神は、罪を犯した御使たちを許しておかないで、彼らを下界におとし入れ、さばきの時まで暗やみの穴に閉じ込めておかれた。五また、古い世界をそのままにしてお

かないで、その不信仰な世界に洪水をきたらせ、ただ、義の宣伝者ノアたち八人の者だけを保護された。六また、ソドムとゴモラの町々を灰に帰せしめて破滅に処し、不信仰に走ろうとする人々の見せしめとし、七「ただ、非道の者どもは放縱な行いによってなやまされていた義人トだけを救い出された。八「この義人は、彼らの間に住み、彼らの不法の行いを日々見聞きして、その正しい心を痛めていたのである。九「こういうわけで、主は、信心深い者を試練の中から救い出し、また、不義な者ども、一「特に、汚れた情欲におぼれ肉にしたがって歩み、また、権威ある者を軽んじる人々を罰して、さばきの日まで閉じ込めておくべきことを、よくご存じなのである。二「こういう人々は、大胆不敵なわがまま者であつて、栄光ある者たちをそしってはばかりとて、御使たちは、勢いにおいても力においても、彼らにまさっているにかかわらず、彼らを主のみまえに訴えしめることはしない。三「これらの者は、捕えられ、ほふられるために生れてきた、分別のない動物のようなもので、自分が知りもしないことをそしり、その不義の報いとして罰を受け、必ず滅ぼされてしまうのである。四「彼らは、真昼でさえ酒食を楽しみ、あなたがたと宴会に同席して、だましごとにふけている。彼らは、しみであり、きずである。五「その目は淫行を追い、罪を犯して飽くことを知らない。彼らは心の定まらない者を誘惑し、その心は貪

欲に慣れ、のろいの子となつてゐる。一五 彼らは正しい道からはずれて迷いに陥り、ペオルの子バラムの道に従つた。バラムは不義の実を愛し、一六 そのために、自分のあやまちに對するとがめを受けた。ものを言わないうるが、人間の声でものを言い、この預言者の狂氣じみたふるまいをはばんだのである。一七 この人々は、いわば、水のな井戸、突風に吹きはらわれる霧であつて、彼らには暗やみが用意されてゐる。一八 彼らはむなしの誇を語り、迷いの中に生きてゐる人々の間から、かろうじてのがれてきた者たちを、肉欲と色情とによつて誘惑し、一九 この人に自由を与えると約束しながら、彼ら自身は滅亡の奴隷になつてゐる。おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである。二〇 彼らが、主また救主なるイエス・キリストを知ることに、この世の汚れからのがれた後、またそれに巻き込まれて征服されるならば、彼らの後の状態は初めよりも、もっと悪くなる。二一 義の道を心得ていながら、自分に授けられた聖なる戒めにそむくよりは、むしろ義の道をしなかつた方がよい。二二 ことわざに、「犬は自分の吐いた物に帰り、豚は洗われても、また、どろの中にころがって行く」とあるが、彼らの身に起つたことは、そのとおりである。

第三章 一 愛する者たちよ。わたしは今この第二の手紙をあなたがたに書きおくり、これらの手紙によつて記憶を呼び起し、あなたがたの純真な心を奮い立

たせようとした。二 それは、聖なる預言者たちがあらかじめ語つた言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた主なる救主の戒めとを、思い出させるためである。三 まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、四 主の來臨の約束はどうなつたのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであつて、變つてはいない」と言うであらう。五 すなわち、彼らはこのことを認めようとはしない。古い昔に天が存在し、地は神の言によつて、水がもとになり、また、水によつて成つたのであるが、六 その時の世界は、御言により水でおおわれて滅んでしまつた。七 しかし、今の天と地とは、同じ御言によつて保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまゝ保たれてゐるのである。

八 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあつては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。九 ある人々がおそいと思つてゐるように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに對してながく忍耐しておられるのである。一〇 しかし、主の日は盗人のように襲つて来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな

